

注入コンクリート配合報告書

様 施工者

整理番号		報告年月日		配合計画者名			
工事名							
所在地							
注入コンクリート 施工箇所				所要 フロー値			
セメント種別	製造 会社名		単位セメ ント量		kg/m ³		
フライアッシュ 種別(会社別)	分散剤		ポゾリス No.8	濃度			
細骨材	最大 寸法	mm	粗粒率	%	比重		
砂利、碎石	同上	mm	空隙率	%	同上		
最大水 セメント比	% 4週圧縮強度			kg/m ²			
標準配合表							
材料所要量	セメント	フライアッシュ	細骨材	ポゾリス No.8	アルミ粉末	水	フロー値
	kg/m ³	kg/m ³	kg/m ³	kg/m ³	kg/m ³	ℓ/m ³	sec
1バッチ 材料所要量							
重量配合比				水、セメント比			%
配合設計の方法その他							

P C グ ラ ウ ト エ 試 験

年 月 日	測定者	印
天候		

試験番号 _____	気 温 _____ °C
試験場所 _____	セメント温度 _____ °C
測定開始時刻 午前・後 時 分	使用水温 _____ °C
測定終了時刻 午前・後 時 分	グラウト温度 _____ °C

1. 材 料

材料	種類	製造業者
セメント		
フライアッシュ		
セメント分散剤		
A. L. 粉 末		

2. 練り混ぜ

ミ キ サ	
ミキサの回転数	回/分
練り混ぜ時間	分
材料投入時間	分 秒

3. バッチ配合

W/C (%)	C (kg)	W (kg)	Pozz (g)	AL (g)	AL/C (%)

4. 試 験

練り混ぜ後放置時間	分
	秒
流下時間	秒
	秒

番 号	直後の読み (cc)	3時間経過後の読み		20時間以上経過後の読み		ブリージング率		膨張率(%)	
		水 (cc)	グラウト (cc)	水 (cc)	グラウト (cc)	3時間後 (%)	20時間後 (%)	3時間後	20時間以上

圧 縮 強 度 試 験					圧 縮 強 度 試 験				
番 号	材 令	荷 重 (KN)	圧縮強度 (N/mm ²)	備 考	番 号	材 令	荷 重 (KN)	圧縮強度 (N/mm ²)	備 考
平均					平均				

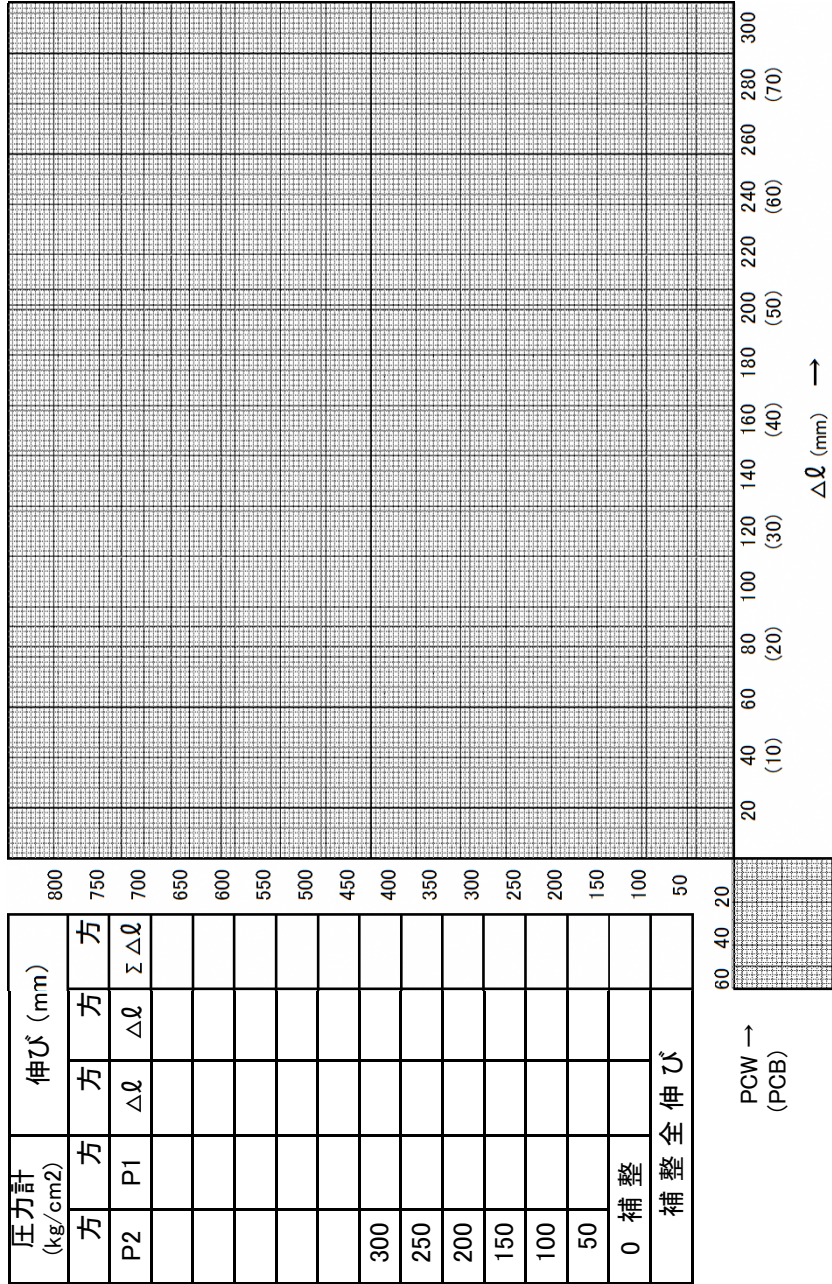
プレストレスリング管理表(1)

緊張年月日	年月日
けた番号	No.
ケーブルNo.	
緊張順序	

測定者 _____ 印 _____

コンクリート打設	年月日
コンクリートの圧縮強度	
$\sigma = N/mm^2$ (自然養生)	
$\sigma = N/mm^2$ (標準養生)	
支間中央最終戻り値	mm
短縮量	mm

緊張上の特記事項	
晴・曇・雨	気温 °C



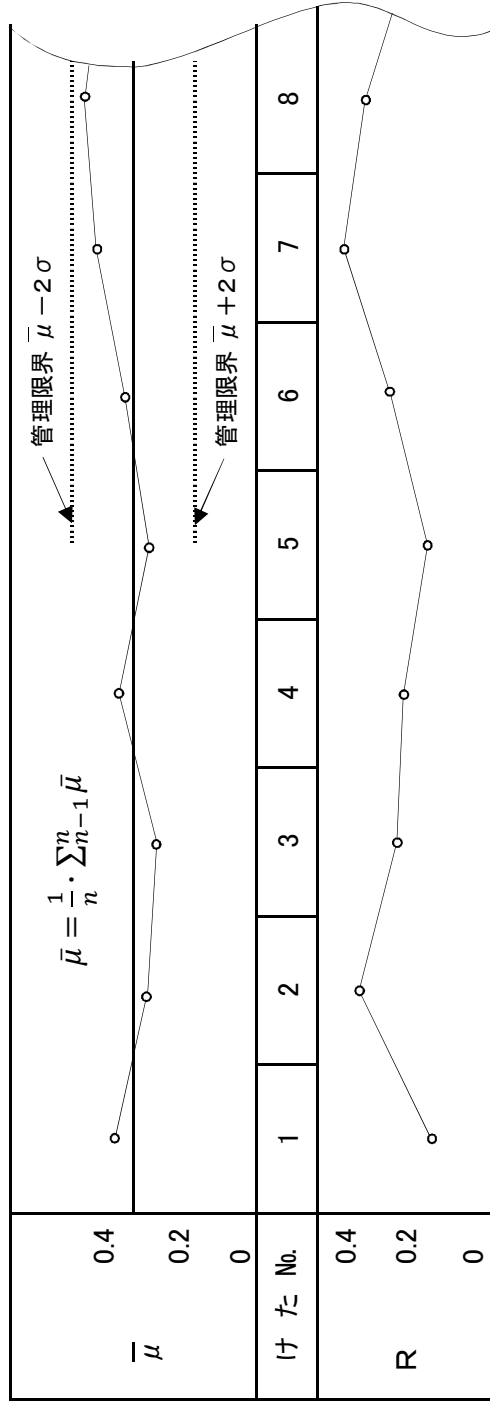
60 40 20
PCW →
(PCB)

プレストレッシング管理表(2)

(PCケーブルの組による管理)

けた番号	1	2	3	4
ケーブル番号	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
摩擦係数の値(μ)	0.37 0.27 0.36 0.34 0.40 0.40	0.18 0.30 0.20 0.10 0.40 0.45		
μの平均値(μ̄)	0.375	0.272		
μの範囲(R)	0.13	0.35		

けた番号	8	9	10	11
ケーブル番号	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
摩擦係数の値(μ)	0.28 0.63 0.38 0.34 0.35 0.29			
μの平均値(μ̄)	0.378			
μの範囲(R)	0.35			



高力ボルト締付け検査記録表

検査年月日	年月日	測定者	印
高力ボルトの種類	締付けボルト軸力 KN・m		
インパクトレンチ ボルト軸力計 トルクレンチ 柄のタワミによる型 ダイヤル目盛型	社製 社製 社製 社製	トルク係数値およびトルク値の算出試験 (ボルト各サイズごと)	
	ボルト	測定軸力	算出トルク係数
	No.1		
	No.2		
	No.3		
	No.4		
	No.5		
	インパクトレンチの検定		
	午前 (作業開始前)	午後 (作業開始前)	作業完了
測定軸力			
セットした軸力			
箇所	検査本数	所用トルク (T)	測定トルクの値 (KN・m)
	—		
	—		
	—		
	—		
			合計
			平均
			誤差
			許容トルク値
			略図及び名称

高力ボルト締付け検査記録表

検査年月日		年月日		測定者		印					
高力ボルトの種類		F10T		締付けボルト軸力		201 × 1.10 = 221.1 KN・m					
インパクトレンチ ボルト軸力計		社製 社製		トルク係数値およびトルク値の算出試験 (ボルト各サイズごと)				所用軸力になるための トルク値 T = 0.123 × 2.2 × 221.1 = 59.8 KN・m			
トルクレンチ 柄のタワミによる型 ダイヤル目盛型		社製 社製									
インパクトレンチの検定											
測定軸力	午前 (作業開始前)	午後 (作業開始前)	作業完了				T = K × d1 × N				
	62		62				T = トルク値				
セットした軸力							K = トルク係数				
	61						d1 = ボルト円筒部径の基本値				
						N = ボルト軸力					
箇所	検査本数	所用トルク (T)	測定トルク値 (KN・m)				合計	平均	誤差	許容トルク値	Ta = T × (1 ± 0.10)
桁 F-1(U.Flange)	4本 24本中	61	2~口	3~イ	4~へ	6~ニ	252	63.0	3.3%	U.Flange 12345678	
			62	64	62	64				略図及び名称	
" (Web:L)	5本 48本中	"	10~リ	10~ル	9~タ	9~ク	316	63.2	3.6%	Web	
			61	64	65	62				L.Flange 13 15 17 19 14 16 18 20	
" (Web:R)	5本 48本中	"	12~子	11~カ	11~ラ	12~ワ	311	62.2	2.0%	Web	
			61	65	62	61				略図及び名称	
" (U.Flange)	4本 24本中	"	16~ケ	16~ア	18~コ	19~テ	251	62.8	3.0%	Web	
			64	64	61	62				略図及び名称	

キャンバー測定記録表

工程		測定箇所		測定者		
		架設後	印	地覆・高欄	印	印
鋼げた 架設 完了時	計画高					
	施工高					
	差					
床版 打設 完了時	計画高					
	施工高					
	差					
高欄 地覆 完了時	計画高					
	施工高					
	差					
舗装 完了時	測標高					
	計画高					
	施工高					
	差					

注 地覆施工時、地覆部に接点数の1/2程度の数の測標を設置するものとする。
 測標はさびにくい材料によるものとし、舗装完了時の測標高を記録するものとする。

膜厚測定記録

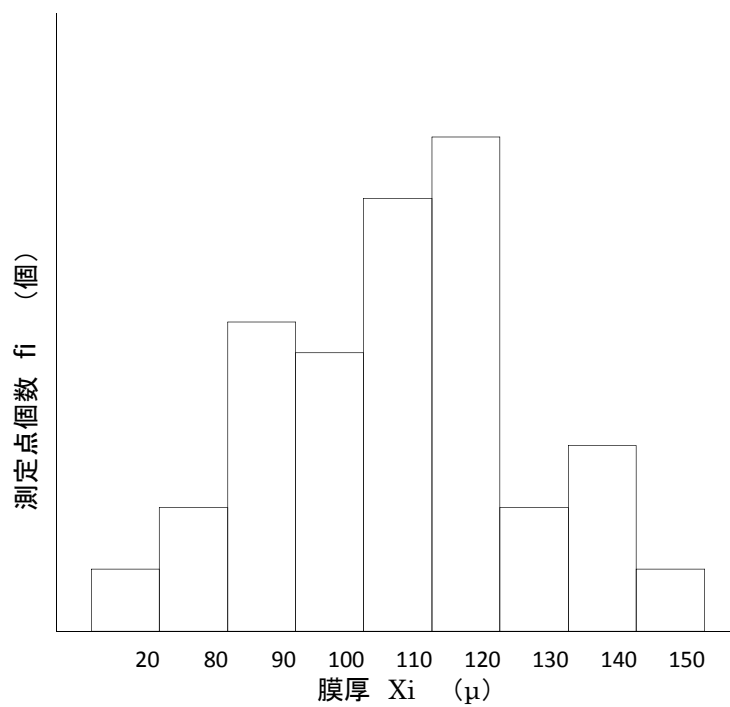
塗 装 系	系					測 定 日 時	年 月 日		
測 定 時 間	工 場 後	現 場 後				測 定 者	印		
構 造 名						目標塗膜厚合計			
測定位置 測定値	1	2	3	4	5	平均 Xi	平 方 根		備 考
							$\bar{X} - X_i$	$(\bar{X} - X_i)^2$	
G ₁ -1 A B C D E F G H I J K L M N									
合 計							合 計		
平 均 値 $\bar{X} =$									

平 均 値	$\bar{X} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n X_i$	
標 準 偏 差	$S = \sqrt{\frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (\bar{X} - X_i)^2}$	

塗膜厚の度数分布表

記録者 _____ 印

膜厚 (μ) X_i	測定点個数 f_i	膜厚 (μ) X_i	測定点個数 f_i
20~29		110~119	
80~89		120~129	
90~99		130~139	
100~109		140~149	
		合 計	



くい打込み記録表 (記載例)

くい番号	記録者										印						
年 月 日	天 候		気 温		°C												
くい打機諸元			ディーゼルバイラルハンマー D-12														
長さ	15.0m	貫入深さ	※17.0m	径	600mm												
管 厚	9+12mm	作業時間	7'00"~10'20"	作業時間合計	3時間20分												
溶接時間	58'+47'=105'	総打撃数	1,142 回														
貫入量	0.8cm	リバウンド量	0.6cm	ラム落下高	110cm												
支持力	(支持力の算定は次頁による)																
くい位置のずれ	X-X	mm	Y-Y	mm	くい角度のずれ		1/100										
備 考	※ヤットコ φ600mm L=4.00mを使用 >< は継手位置																
土 質		N 量		標 高 (m)		貫入深さ (m)		100cm 打撃回数累計		貫入量 (mm)		100cm ごとく 1打撃当り貫入量 (mm)		落下高 (cm)		シリンダバウ量 (mm)	
シルト交り砂質土		10 20 30 40		100		95		21 49 133 162 199 251 318 396 460 524 600 668 746 829 924 1032 1142		48 35 11 34 27 19 15 13 16 16 13 15 13 12 10 9 9		10 20 30 40		110 110 110		0.8 0.7 3回の平均 0.6	
れき交り粘土		10 20 30 40		90		90											
れき交り砂質土		10 20 30 40		85		83											

[参考]

杭の打止め管理

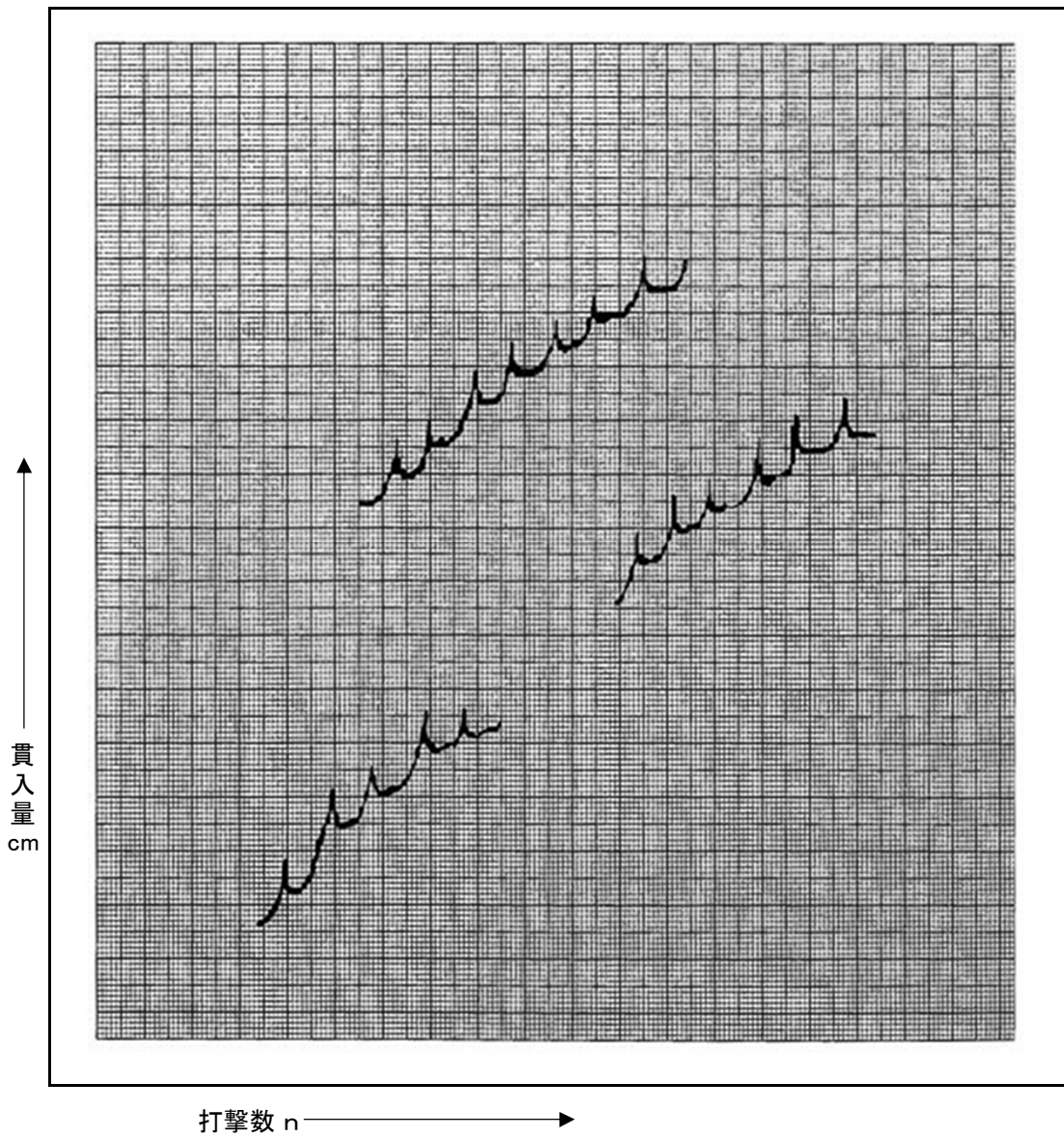
杭の打止め管理は杭の根入れ長さ、リバウンド量（動的支持力）、貫入量、支持層の状態などにより総合的に判断しなければならない。

動的支持力の算定式については「杭基礎工便覧」（日本道路協会H4/10）などによる。

くい貫入量測定記録図

くい番号	No.	
貫入深度	G. L-00	mm
ハンマ重量	W 1.25	ton
ハンマ落下高さ	H 110	cm
貫入量	S 0.4	cm
リバウンド	K 0.6	cm
長期許容支持力	Ra	ton

年月日 年 月 日
測定者 印



場所打ちぐい施工記録表

測定者 _____ 印 _____

施工記録						(年 月 日)
くい番号		掘削深度		施工機械名		施工時間 合計
機械段 取替	ケーシング 建込み	掘削	鉄筋 建込み	トレミー 建込み	コンクリート 打設	
自時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分
至時分	時分	時分	時分	時分	時分	
計時分	時分	時分	時分	時分	時分	

掘削記録

掘削深度	時刻	土質名	掘削深度	時刻	土質名
m	時分		m	時分	

出来形・品質記録

くい位置のずれ	X-X	mm	Y-Y	mm	くい角度のずれ	1/
くい頭コンクリート	とりこわし長	cm	圧縮強度	$\sigma =$	KN/mm ²	

場所打ちくい管理記録図(例)

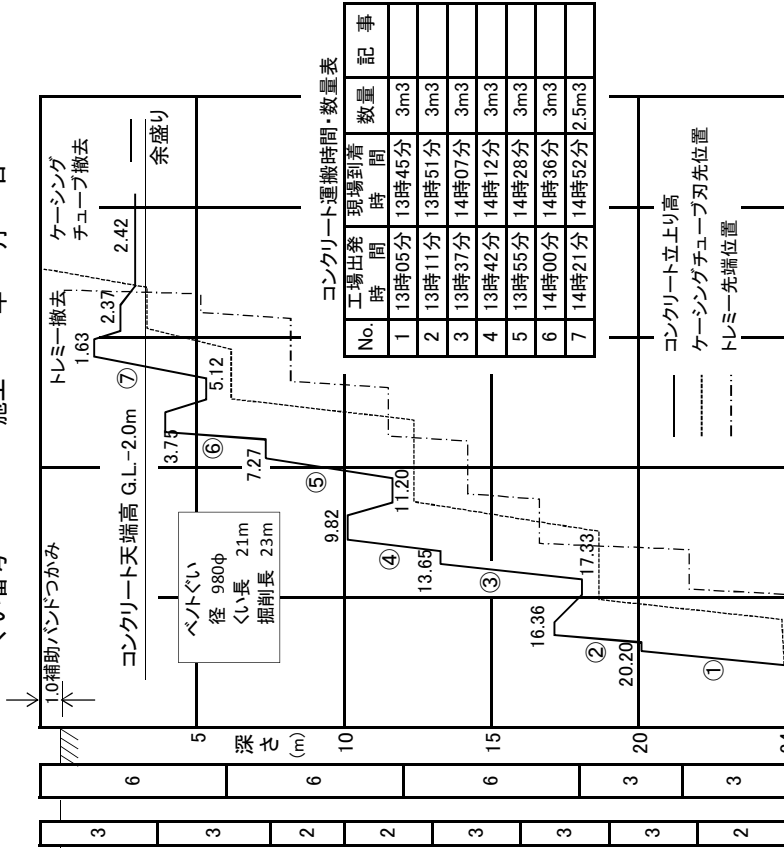
令和元年7月1日	天候 はれ 気温 21℃	基礎種別 P ₁ くい番号 P ₁ -3	くい寸法 径100・30m
機械すえ付高 A.P.+1.20m	支持層 砂利混じり砂 土質名 コンクリート設計 天端高 A.P.±0m	掘削 掘削	ボーリング発生防止のため孔内水位の変動に注意した。
鉄筋天端高 設計A.P.+1.12m	施工 施工 A.P.+1.00m	特記事項	鉄筋かごの共あがりが見られるのでこのスペーサを修正した。
施工A.P.+1.13m		沈殿物処理	孔底に水中ポンプを設置し清水置換を実施した。
掘削記録			
ボーリング柱状図			
端高 A.P. ±0	A.P.+1.50m		
-5			
-10			
-15			
-20			
-25			
-30		A.P.-30.00	凡例 — 掘削深さ
時間	6.00	7.00	8.00
		9.00	10.00
			11.00

印

測定者

施工年月日

くい番号



13時30分 14時00分 14時30分 15時00分 15時30分

ケーシングチューブ先位置
トレミー配置

井筒 深礎 施工記録表

基礎番号		型式形状		形状寸法		測定者			印	
使用機械										
特記事項					コンクリート 圧縮強度	ロッド	強度	ロッド	強度	
月日	工種	作業内容	測定又は 作業時間	実測 地質	沈殿又は 掘削深	累加沈設 (掘削)深	変位値	沈設高	沈設 荷重	摘要

備考 1. 沈設又は掘削深さとあるのは、井筒の場合は沈設深、深礎の場合は掘削深さを記入する。
 2. 沈設荷重欄は井筒の場合に記入する。

井筒
深礎

施工管理図(例)

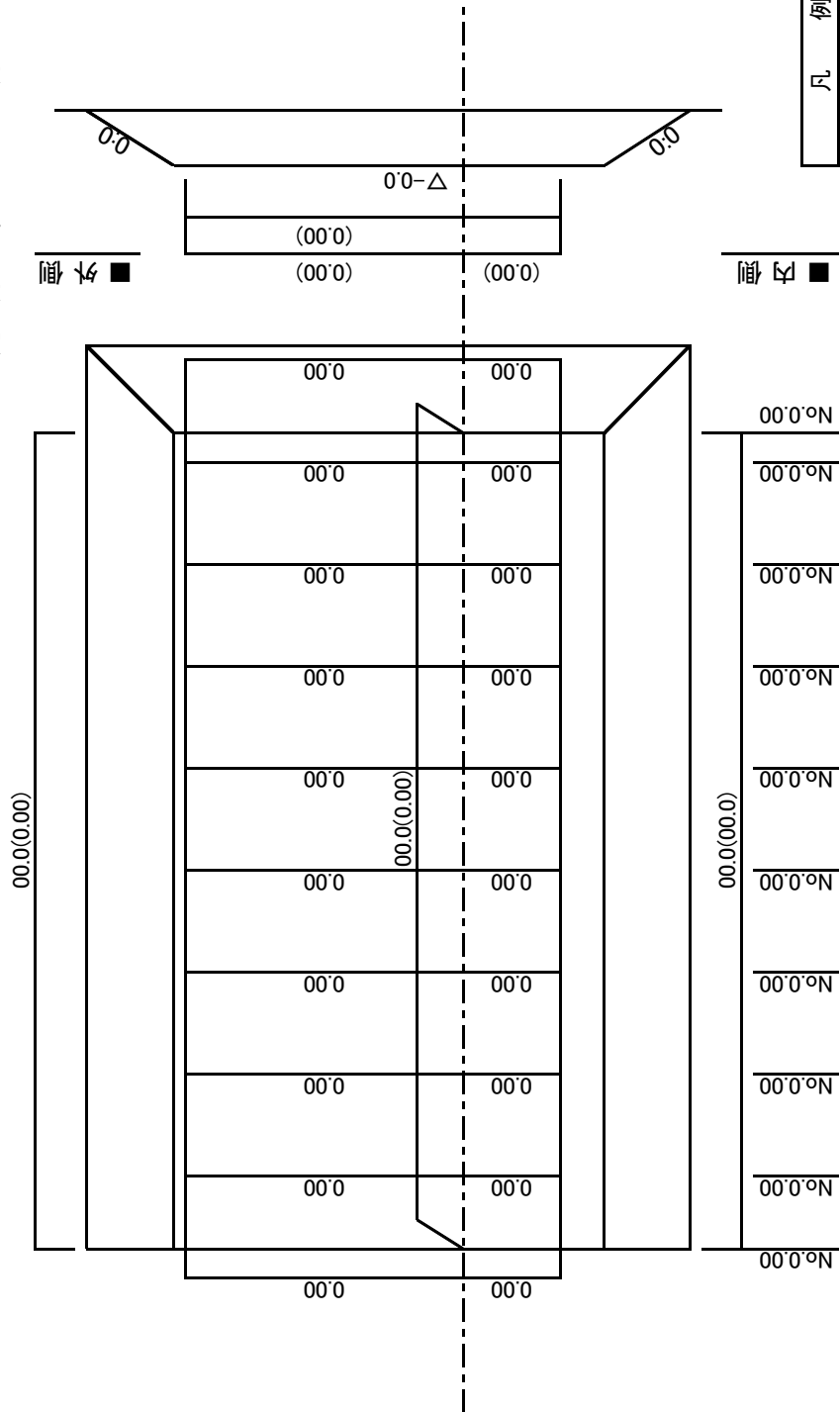
基礎番号	第○号橋脚	形式形状		円形	形状寸法		測定者	印	
		形式	形状		φ8.00x20.0m	中埋材			
施工値	橋軸	すえ付地盤高H=100.00		天端H 100.000	位置のずれ		中埋材	特記事項 1. 5.0~7.0ポンプ(φ160)3台使用(80m3/H) 2. 18.5m沈下が止まったので100t 載荷する。	
		100.010	σ=+5	100.250	σ=+10	X-X			-10
		100.000	σ=+5	99.985	σ=+0	Y-Y			+5
		100.005	σ=+5	100.010	σ=+10	X-X			-10
		100.005	σ=+5	100.000	σ=+0	Y-Y	+5		
深度	標高	ボーリング 柱状図	実測 柱状図	沈設記録			中埋記録		
±0	100.000			月日 日数			月日 日数		
5	95.000	砂ン混 質ルじ 土トリ	1ロット20日 整地 月日すえ付	5/1	6/1	7/1	8/1	9/3	
10	90.000	礫混じり 粘土	1ロット打設養生	6/1	6/2	6/2	6/2	6/2	
15	85.000		1ロット	6/1	6/2	6/2	6/2	6/2	
20	80.000	玉石混じり 土	1ロット	6/1	6/2	6/2	6/2	6/2	
25		硬岩		6/1	6/2	6/2	6/2	6/2	
30				6/1	6/2	6/2	6/2	6/2	

基礎工 均しでき形図

現場代理人:

工事名:

測定年月日: 令和 年 月 日



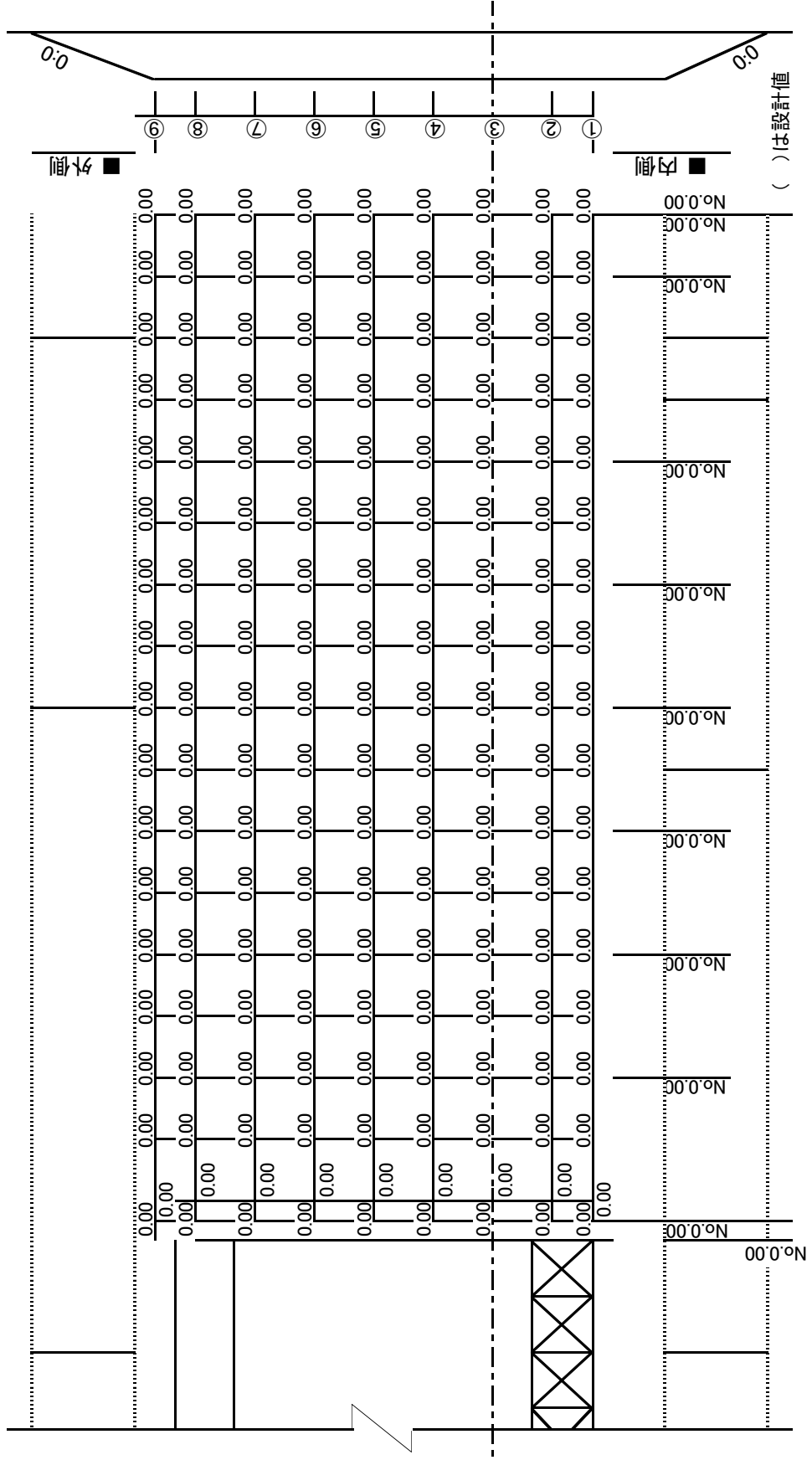
凡例
単位: m
()は設計値

基礎工 均しでき形平面図

現場代理人：
測定年月日：

年 月 日

工事名：



杭 打 込 記 録

杭 番 号	No.:			
外径又は高さ・幅	cm		ラ ム 落 下 高	m
長	m		打撃エネルギー	t・m
打込年月日	令和	年	月	日
記録者氏名			爆発による押圧力	回/分
			クッション材	
			クッション材	

貫入深さ (m)	50cm(10cm)ごとの打撃回数(回)	累加打撃回数(回)	50cm(10cm)ごとの平均貫入量 (cm/blow)	リバウンド量 (cm/blow)	ラム落下高 (m)	備 考
						地 盤 高 _____ m
						自重による貫入量 _____ m
						(杭打機の載荷による貫入量) _____ m

- 注1) 貫入深さは、工事前基準面からの深さとする。
 2) 現地地盤高、自重による貫入量は、備考欄に記載する。
 3) 打撃回数及び平均貫入量は、全長については50cmごとに、また打止まり付近は10cmごとに記録する。
 4) リバウンド量及びラム落下高は、打止まり付近について記録する。
 5) 打込み後の杭の傾斜、打込み時の異常等は、備考欄に記載する。
 6) 振動式杭打機または、油圧式杭打機を使用する場合は、工事監督員の承諾を得るものとする。

刈幅・置幅検測結果表

監督員 確認	印
-----------	---

検測年月日 年 月 日
現場代理人 印

工事名	
工事箇所	
刈幅設計値	m
置幅設計値	m

刈幅・置幅許容値	
刈幅(-10%)	~
刈幅・置幅 (セット) (±10%)	~

番号	刈幅(m)	刈・置(セット)	番号	刈幅(m)	刈・置(セット)	番号	刈幅(m)	刈・置(セット)
1			1			1		
2			2			2		
3			3			3		
4			4			4		
5			5			5		
小計			小計			小計		
1			1			1		
2			2			2		
3			3			3		
4			4			4		
5			5			5		
小計			小計			小計		
1			1			1		
2			2			2		
3			3			3		
4			4			4		
5			5			5		
小計			小計			小計		
1			1			1		
2			2			2		
3			3			3		
4			4			4		
5			5			5		
小計			小計			小計		
						合計		

	合計値		検測箇所数		平均値
刈幅		÷		=	
セット		÷		=	

結果

苗木検査調書

監督員 確認	印
-----------	---

検測年月日 年 月 日
 現場代理人 印

工事名	
工事箇所	
樹種	
苗木	
納品本数	

苗木標準規格	
苗木長	
根元径	
H/D	

番号	根元径	苗木長	H/D	番号	根元径	苗木長	H/D	番号	根元径	苗木長	H/D	番号	根元径	苗木長	H/D
1				26				51				76			
2				27				52				77			
3				28				53				78			
4				29				54				79			
5				30				55				80			
6				31				56				81			
7				32				57				82			
8				33				58				83			
9				34				59				84			
10				35				60				85			
11				36				61				86			
12				37				62				87			
13				38				63				88			
14				39				64				89			
15				40				65				90			
16				41				66				91			
17				42				67				92			
18				43				68				93			
19				44				69				94			
20				45				70				95			
21				46				71				96			
22				47				72				97			
23				48				73				98			
24				49				74				99			
25				50				75				100			

試験盛土による盛土締固め総括表(様式例)

測定	土質 種別	転圧 回数	前進第二速		総重量		履帯中心距離	
			cm	km/H	kg	kg/cm ²	mm	mm
			後進第一速		換地圧		履帯幅×接地長	
			km/H	kg/cm ²			mm	
			試験盛土の試験値			施工箇所盛土の試験値		
			締固度	飽和度	空気間隙率	締固度	飽和度	空気間隙率
			%	%	%	%	%	%
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						
		3回						
		4回						
		5回						

(注)1. 築堤試験盛土等の様式例である。

2. 上表を参考にして各試験方法に応じ適切な総括表を作成すること。

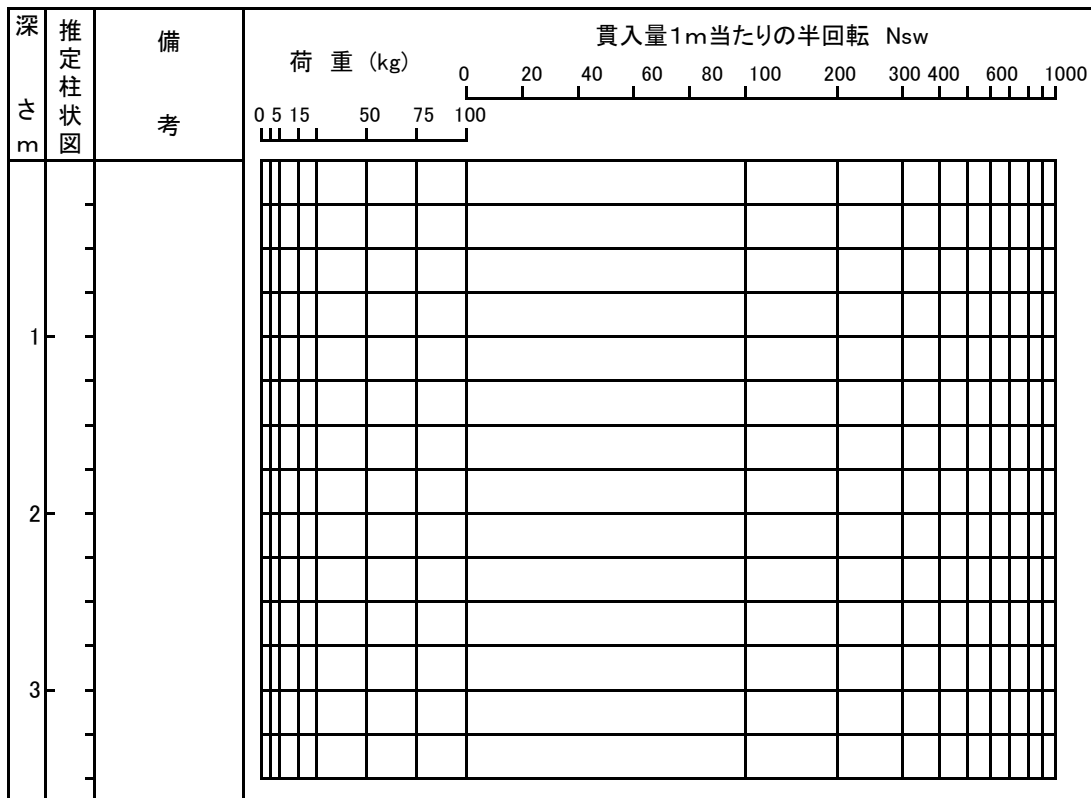
平板載荷試験

工事名				試験年月日			
工種名				試験者			
載荷板直径	cm			載荷板面積	m ²		
圧力装置				極限支持力	kgf/cm ²		
				地盤反力係数	kgf/cm ²		
時間 min	荷 重			沈 下 量			
	荷重計の読み	全荷重 kgf	荷重強さ kgf/cm ²	変位計の読み mm			沈下量 cm
左				右	平均		

スウェーデン式サウンディング試験

工 事 名					試験年月日	
工 種 名					試 験 者	
載 荷 装 置						
荷 重 W _{sw} (kg)	半 回 転 数 N _a	貫 入 深 さ D (m)	貫 入 量 L (m)	1m当たりの 半回転数 N _{sw}	備 考	

試験結果図



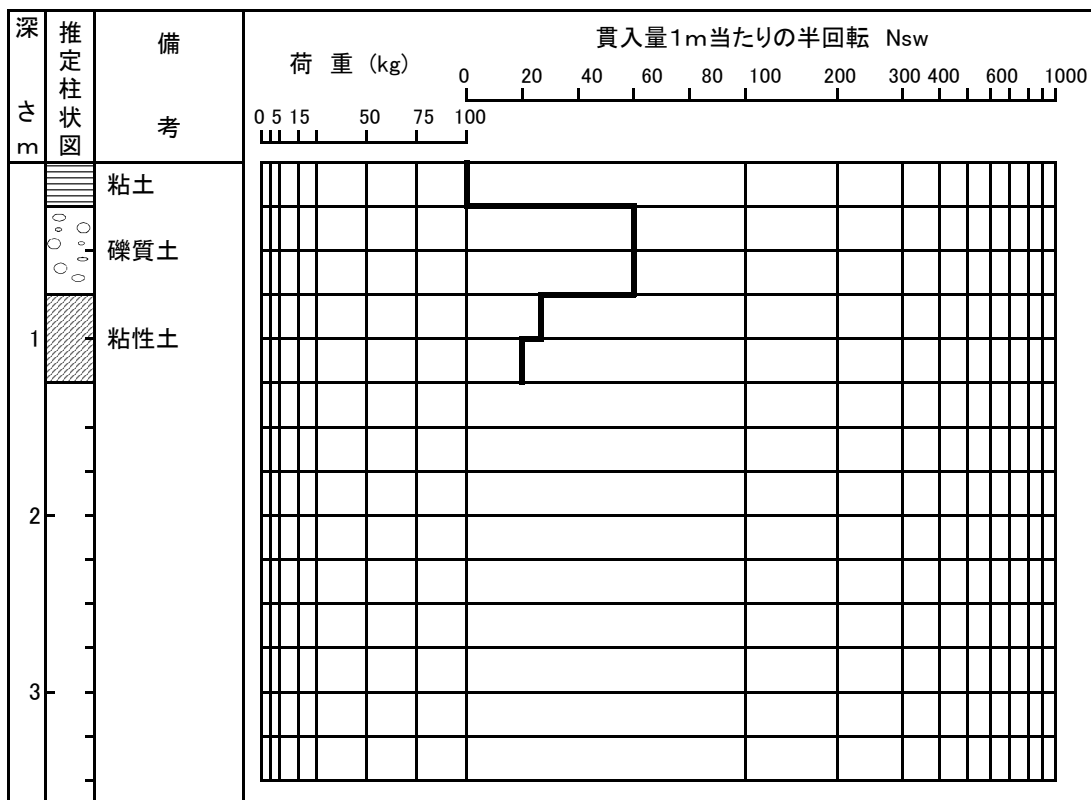
推定柱状図例

	砂		シルト		粘土		砂レキ		表土
	砂質		シルト質		粘土質				

スウェーデン式サウンディング試験（記載例）

工 事 名	〇〇の沢復旧治山工事		試験年月日	令和 2 年 12月 10日	
工 種 名	No.1 土留工		試 験 者	〇 〇 〇 〇	
載 荷 装 置	バックホウ 0.60m ³				
荷 重 W _{sw} (kg)	半 回 転 数 N _a	貫 入 深 さ D (m)	貫 入 量 L (m)	1m当たりの 半回転数 N _{sw}	備 考
0	0	0.25	0	0	建込み
100	15	0.50	25	60	
100	15	0.75	25	60	
100	6	1.00	25	24	
100	5	1.25	25	20	

試験結果図



推定柱状図例

	砂		シルト		粘土		砂レキ		表土
	砂質		シルト質		粘土質				

空白ページ